

出題される試験問題のイメージ<例題>

紙媒体の取扱いとして適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。

- ア. 取引先から自分宛に届いた送付状を廃棄する際、発送主の個人名が記載されていなかったため、そのまま「燃えるゴミ」として処分した。
- イ. 同僚宛に、得意先から封筒に入った顧客名簿を預かってきたが、本人が出張中であったため、施錠した机に保管した。
- ウ. 来訪者用の「入退室管理表」を、一覧表形式のものとして受付に設置した。
- エ. 打合せ終了後、配布した顧客名簿を社内会議室に置き忘れてきたが、次の会議室使用の予約が入っていなかったため、急ぎの案件を処理してから、顧客名簿を取りに行った。

学習方法のご案内

公式テキストのお問い合わせ先

株式会社アスキー・メディアワークス

法人のお客様 <https://ssl.asciimw.jp/info/inquiry/00-04/>

個人のお客様 <https://ssl.asciimw.jp/info/inquiry/form1.php>

※鹿児島県職業能力開発協会でもテキストを販売しております。
詳しくはHP (<http://www.syokunou.or.jp>) をご覧下さい。



情報セキュリティ対策は社内での啓発と教育が不可欠

**試験を活用することで、
法規制や社内制度などをコーティング！
より強固な情報セキュリティ対策が可能になります！！**

IT活用を背景として、個人情報をはじめとする多くの情報が企業活動において活用されている現在、情報セキュリティに関連した事故等の脅威から会社を守るために、まず取組まなければならないのが、**社内の啓発と教育**であると言われています。

しかしながら、情報セキュリティの重要性について認識はしているが、必ずしも万全の対策はとれていない現状です。

check.
1

試験を受験させることで

・この試験は“身近にある情報の重要性とその確保について問う試験”です。これを社内の啓発・教育の一環として、社員に受験させることにより、社員一人一人の「自覚」が高まり、確実に「実行」することで、事故の未然防止などリスク対策に効果的です。

check.
2

結果を活用することで

・これに加え、試験の結果等を基に、優秀な部署や推進役などの関係者に対し、社長賞など表彰することで情報セキュリティ対策を支える企業風土を確立することが可能です。

check.
3

名刺に称号を載せることで

・この試験に合格すると「情報セキュリティ技士」の称号が与えられることから、名刺に記載することができ個人や企業の信頼の確保やイメージアップに役立てることができます。

